令和６年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
「第２０回花山雪っこまつり」報告書

１　趣旨

冬のイベントとして地域の活性化に寄与することを目的に開催される「花山雪っこまつり」において、実行委員会と連携・協力しながら自然の家の教育資源を活用した子どもたちの体験活動の振興を図る。

２　主催

花山雪っこまつり実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立花山青少年自然の家

３．後援

栗原市

４．期日

令和７年２月１日（土）～令和７年２月２日（日）

５．会場

国立花山青少年自然の家 館内 及び 周辺フィールド

６．概要

（１）参加者数　　のべ８００人

（２）内　容

〔実行委員会主催大会〕

・ドッヂビー大会　・綱引き大会

〔実行委員会出展体験ブース〕

・足湯

〔自然の家出展体験ブース〕

・スノーモービルバナナボート　・そり・チューブすべり　・スノーシューハイク
・雪上宝さがし　・火おこし、たき火体験　・館内謎解きゲーム　・リックを探せ

〔飲食ブース〕

・有限会社　鳥恵　・株式会社ニッコクトラスト　・一般社団法人はなやまネットワーク

ドッヂビー大会

スノーモービルバナナボート

そり・チューブすべり

雪上宝探し

火おこし、たき火体験

足湯

７．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：８０％　　やや満足：１９％　　やや不満：１％　　不満：０％

（２）成果

〔広報・集客について〕

一昨年より自然の家を会場にし、今年度は、自然の家職員が事務局となって、実行委員を始めとした地域の方々と綿密な打ち合わせの上、開催した。２年ぶりに天候に恵まれ、積雪も多く、雪上での活動もでき、当日はこの上ないコンディションで行うことができた。

広報においては、市内小学校にはチラシ配布（総数３０００枚）、県内の児童館や道の駅にはポスター配布（総数１００枚）を行った。メディアとしては、ＮＨＫてれまさむね、栗原市公式ＬＩＮＥ、広報誌ジョイ栗原等で取り上げていただくことで多くの方々に来場いただいた。

２日間を通しての来場者数は、ドッヂビー大会に出場する県内のスポーツ少年団がのべ約４５０名、シャトルバスにて来場いただいた一般の参加者がのべ約３５０名と、昨年度（一般参加者のべ１２０名）よりも大幅に集客でき、ここ数年ではもっとも多い人数であった。チラシ、ポスター、インスタグラム等のＳＮＳを見て来場したという方も多く、今回の広報が集客にも結び付いていたと考えられる。

〔ブースについて〕

参加者に様々な自然体験を提供できるように、花山青少年自然の家職員１７名、ボランティア１１名、仙台大学スポーツマネジメント実習生５名の合計３２名で７つの体験ブースを運営した。（昨年度は４ブース）それにより、スタッフはとても忙しかったが、参加者にはとても楽しんでもらえていた。特に雪を使ったプログラムは人気でそり・チューブすべりやスノーモービルバナナボートは常に行列ができ、笑顔もたくさん見られた。小さい子に向けて、親子で行う館内謎解きやリックを探せ、雪上宝探しを開催したことで喜んでいる姿をみるこ

とができた。

〔レクリエーションについて〕

宿泊団体を対象に行ったレクリエーションでは、参加者が生き生きと活動する様子が見られた。ボランティア、仙台大学のスポーツマネジメント実習生が各レクリエーションブースの計画・運営を担い、学生スタッフと小学生の交流にもなった。また、スタッフの参加者対応のスキルアップにつながった。

（4）課題

- 積雪についての情報、着替える場所はあるのか、事前申し込みは必要かなどの問い合わせがあり、ＳＮＳやウェブサイトにて細かい情報提示が必要であった。
- バス発着所や駐車場がわかりにくかったという声があり、もう少し見やすい表示、または表示を増やすという工夫が必要であった。

〔その他〕

主催が花山雪っこまつり実行委員会でありながらも自然の家の職員が事務局となることで情報共有等において時間がかかることがあったが、これまでに日常的にコミュニケーションを取ってきたこともあり、互いに気兼ねなく話しができたことで大きなトラブル等なく運営することができた。花山地区の住民にとっては、自然の家は地域のシンボル的な存在でもあるので、名実ともに中心となって地域を盛り上げていくという上では非常に意味のある事業だと感じている。栗原市を代表するイベントとして次年度以降も継続して行うとともに、地域と国立施設の連携事業として他の自治体のモデルとなれるようメディア発信を行い、様々な地域を盛り上げる一助となれるよう励んでいきたい。

担当：企画指導専門職　鎌田　浩徳